

# 資 料

---

おいらせ町の災害状況報告

おいらせ町震災復興計画策定に係る経過

おいらせ町震災復興計画策定にかかるアンケート調査結果

被災者聞き取り調査結果

地区懇談会の結果

おいらせ町震災復興計画策定委員名簿



## おいらせ町の災害状況報告

### (1) 地震の概要

発生日時：3月11日（金）14時46分頃

震源及び規模：三陸沖（北緯 38.1 度、東経 142.9 度、牡鹿半島の東南東 130km 付近）  
深さ 約 2.4 km、マグニチュード 9.0（推定値）

おいらせ町の最大震度：震度 5 強

### (2) 津波の概要

津波の状況

第 1 波 15時22分 - 0.8 m

最大波 16時57分 4.2 m以上

津波の高さ

八戸 6.2 m（気象庁の推定）

百石漁港 7.5 m（八戸工業大学 佐々木教授の調査結果）

深沢 8.8 m（" "）

警報・注意報 / 避難勧告・指示

- |                |                 |          |
|----------------|-----------------|----------|
| ・ 11日（金）14時46分 | 地震発生            |          |
| ・ 11日（金）14時50分 | 津波警報（津波）発表      | 避難勧告発令   |
| ・ 11日（金）15時14分 | 津波警報（大津波）に切替え   | 避難指示発令   |
| ・ 12日（土）20時20分 | 津波警報（津波）に切替え    | 避難勧告に切替え |
| ・ 13日（日）7時30分  | 津波注意報に切替え       | 避難勧告解除   |
| ・ 13日（日）17時58分 | 津波注意報解除         |          |
| ・ 14日（月）10時57分 | 津波の兆候           | 避難勧告発令   |
| ・ 14日（月）11時11分 | （田老沖で5 mの引き波情報） | 避難指示発令   |
| ・ 14日（月）12時45分 |                 | 避難指示解除   |

### (3) 被害状況（1月26日現在）

人的被害

重傷者 1 名、軽傷者 2 名

住家・非住家被害

区分	り災程度	一川目	二川目	川口	堀切川	明神下	深沢	その他	計
住家	全壊	6	4	16					26
	大規模半壊	2	7	5	1				15
	半壊	13	10	12	2				37
	一部損壊	10	3	5	24			32	74
	計	31	24	38	27	0	0	32	152
非住家	全壊	26	21	32	4				83
	半壊	8	1	1	1				11
	床上浸水	16	11	4	8	1	1		41
	床下浸水	2	4	4	3	3			16
	一部損壊	1	1	0	1				3
	計	53	38	41	17	4	1	0	154

公共土木施設被害

- ・古間木山農業集落排水処理施設 故障
- ・公共下水道施設（間木・曙地区）
- ・木内々中央線 おいらせ町商工会北側道路 液状化 L = 20m
- ・木内々・本町線 木内々小学校付近道路 車歩道ブロック沈下
- ・一川目1号線 伐採木が道路に散乱
- ・深沢公園 フェンス倒れ
- ・海浜公園
- ・白鳥飛来地駐車場 法面崩壊
- ・防災無線屋外拡声子局1局損壊
- ・一の川、二の川防潮水門建屋全損（県）

農林水産業施設被害

- ・漁船流失 19艘
- ・漁船破損 16艘
- ・倉庫全損（共有）1棟
- ・4tユニック 2台全損
- ・陸こうゲート損壊
- ・農地海水冠水
- ・小堤防決壊（県）
- ・ビニールハウス冠水 38棟
- ・堤体表面亀裂（上谷地中堤）
- ・養豚施設全損（看視舎・豚舎他9棟）
- ・養豚死亡 1,500頭

商工業施設被害（百石工業団地内企業他）

- ・床上浸水 9社
- ・建物被害 30社
- ・事務機器等被害 16社
- ・社用車被害 14社
- ・商品原料等被害 40社
- ・床下浸水 3社
- ・機械設備等被害 29社
- ・フェンス破損等 14社
- ・従業員車両 313台

教育施設被害

- ・木内々小学校 窓ガラス破損
- ・百石小学校 校舎・体育館屋根板金の破損

（４）被害額（1月26日現在）（単位：千円）

項目	被害額
住家	200,410
非住家	29,899
農地・農業用施設	116,320
漁業関連	457,944
畜産関連	165,921
商工業関連	845,225
公共下水道	38,452
農業集落排水	6,240
観光施設	3,400
道路	33,558
公園	9,600
消防防災施設	2,700
学校施設	3,915
合計	1,913,584

# おいらせ町被災状況



豚舎全壊・養豚 1,500 頭死亡



二の川・二の川防潮水門損壊



一の川防潮水門損壊



海浜公園は砂が堆積



道路に伐採木が漂着



防潮堤の損壊



工業団地では建物や  
原材料・商品、自動  
車などに被害



漁船・漁港に被害



イチゴハウスに甚大な被害



川口地区では多くの建物に被害

おいらせ町震災復興計画策定に係る経過

月 日	項 目	内 容
5月23日	第1回震災復興本部	震災復興計画の策定について
5月31日	議会議員全員協議会	災害復興対策について
6月10日	総務文教・産業民生常任委員会 合同被災地視察	東日本大震災被害の概要について
7月 7日	第1回震災復興計画策定委員会	組織会 おいらせ町の被害状況の報告について 震災復興計画策定方針について
7月13日	第2回震災復興本部	町震災復興計画の策定について 震災復興本部幹事会について 義援金の配分について 生活・経済活動復興支援助成金について 被災証明書の受付状況について
7月21日	第1回震災復興本部幹事会	震災復興計画短期計画の内容について 被災者聞き取り調査の実施について 地区懇談会の実施について
7月28日	第2回震災復興計画策定委員会	震災復興計画短期計画の内容について 被災者聞き取り調査の実施について 地区懇談会の実施について
8月 2日 ～8月末	震災に関する町民アンケート	18歳以上の町民から2,000人無作為抽出
8月 8日 ～12日	被災者聞き取り調査	半壊以上の被災者から直接聞き取り
8月22日	地区懇談会（甲洋小学校区）	参加者2名のため、再開催（9月21日）
8月25日	地区懇談会（百石小学校区）	参加者20名
8月26日	第2回震災復興本部幹事会	震災復興計画短期計画（案）について
8月26日	地区懇談会（下田小学校区）	参加者14名
8月29日	地区懇談会（木ノ下小学校区）	参加者14名
8月30日	第3回震災復興計画策定委員会	震災復興計画短期計画（案）について 聞き取り調査・町民アンケートの中間報告について
8月30日	地区懇談会（木内々小学校区）	参加者5名
9月 1日	第3回震災復興本部	震災復興計画短期計画（案）について 今後の進め方について
9月 3日	職員の震災対応の検証・調査	アンケート形式
9月 7日	第3回町議会定例会行政報告	震災復興計画短期計画について
9月21日	（台風15号により中止） 第3回震災復興本部幹事会	
9月30日	第4回震災復興本部幹事会	震災復興計画の事業について

月 日	項 目	内 容
10月 7日	第 5 回震災復興本部幹事会	震災復興計画の事業について
10月13日	第 4 回震災復興本部	震災復興計画 中・長期計画について
10月13日	地区懇談会（甲洋小学校区）	参加者18名
10月18日	第 4 回震災復興計画策定委員会	震災復興計画 中・長期計画について
11月17日	第 6 回震災復興本部幹事会	震災復興計画 中・長期計画について
11月21日	第 5 回震災復興本部	震災復興計画 中・長期計画について 震災復興フォーラムについて
11月25日	第 5 回震災復興計画策定委員会	震災復興計画（素案）について 震災復興フォーラムについて
11月30日	町議会全員協議会への報告	震災復興計画（素案）について
12月18日	震災復興フォーラム	講演 ワークショップ
12月20日	第 7 回震災復興本部幹事会	震災復興計画（案）について
12月21日	第 6 回震災復興本部	震災復興計画（案）について
12月21日	被災者との懇談会（川口地区）	生活再建へ向けての懇談 復興に関する制度等の説明
12月26日	第 6 回震災復興計画策定委員会	震災復興計画（案）について
12月26日	被災者との懇談会（一川目地区）	生活再建へ向けての懇談 復興に関する制度等の説明
12月27日	被災者との懇談会（二川目地区）	生活再建へ向けての懇談 復興に関する制度等の説明
12月27日 ～1月20日	震災復興計画（案）に係る パブリックコメント	
1月 6日	第 7 回震災復興本部	震災復興計画（案）について
1月25日	第 7 回震災復興計画策定委員会	震災復興計画（案）の一部修正 震災復興計画（案）の答申
1月26日	第 8 回震災復興本部	震災復興計画の決定

## 報告の要約

### 1. 回答者の属性

有効回答 751 件の内訳を見ると、半数強が女性であり、年齢は 50 代以上が半数以上を占めていた。家族構成は親と子の二世帯家族がもっとも多く、三世帯家族を合わせると 6 割であった。回答者の 9 割近くは「自己又は家族の持ち家」で暮らしている。3 分の 1 は会社員などの勤め人で、半数以上は職業を持っている。

### 2. 被害および被災の状況

回答者の 6 割は家族や住宅に大きな被害がなかったが、7 分の 1 の回答者が勤務先等に被害があった。3 分の 1 強は地震発生時から津波の発生時、仕事等で町外にあり、3 分の 1 弱は自宅または家の敷地内にいた。

### 3. 避難の状況

回答者の 3 分の 2 以上が避難指示の対象地区外だったことから避難していない。

避難した人の 3 分の 1 強は情報なしでも自主的に避難を開始、4 分の 1 弱は防災無線や広報車に促されて避難した。一方、避難指示の対象地区にいたにもかかわらず避難しなかった人が 16 人に 1 人いた。

### 4. 防災意識と情報入手

回答者の半数近くが災害情報の入手や非常持ち出し品に不足感を持った。これに情報連絡体制の不備への不足感も大きく、この 3 項目への不足感が大きかった。

6 割は防災行政無線から情報を得ることができた。屋内個別受信機からと屋外スピーカーからの情報入手はともに 3 割弱でほぼ同数であった。

### 5. 生活再建支援と復興対策

7 割弱は震災後特に困った状況にはないと答えたが、7 分の 1 は収入の減少、1 割弱が体調の悪化を訴えた。被災した町民の生活再建のためには資金的支援、住宅確保と雇用の確保が重要と感じている。

また、これからの都市整備のためには、4 割以上の人防災を目的とした河川や海岸の整備、および危険箇所の土地利用の見直し、防波堤、防潮堤の整備が必要と考えている。

### 6. 防災対策と地域の役割

防災体制の強化にもっとも重要なことは、ライフラインの強化と情報連絡体制の強化であると 6 割以上の回答者が答えた。そして、それを支えるため、日頃から地域での情報伝達や連絡体制づくりが重要であると 6 割弱が答えた。次いで半数弱が食糧や資材の計画的な備蓄が必要であると答えた。



## 報告の概要

### 1. 調査の目的

東日本大震災により生じた被害を乗り越え、より良いまちづくりを進めるために策定する震災復興計画の基礎資料とすること。

### 2. 調査設計

#### (1) 調査対象

おいらせ町内に住む18才以上の男女

#### (2) 有効回答数

751

#### (3) 抽出方法

住民基本台帳より18才以上の住民を役場が無作為抽出した。

#### (4) 調査実施方法

郵送による配布、郵送による回収

#### (5) 調査実施期間

平成23年8月

#### (6) 集計・分析委託機関

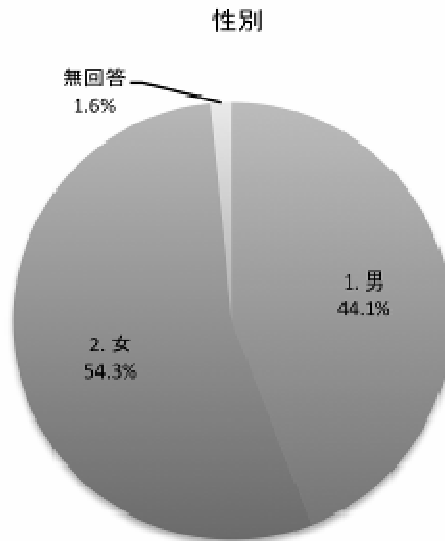
協同組合プランニングネットワーク東北

### 3. 調査結果の概要

#### (1) 回答者の属性

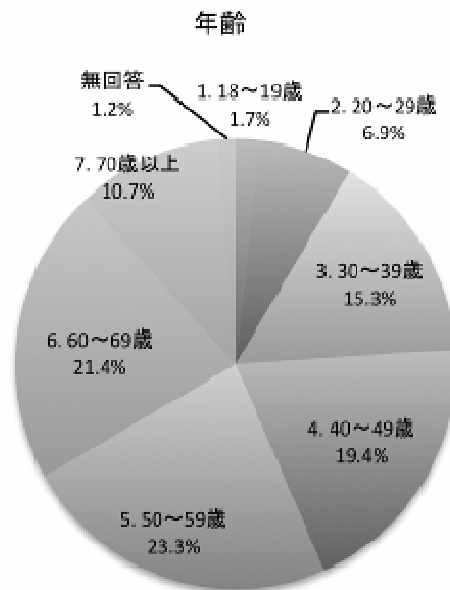
性別 女性がやや多い

「女」408人(54.3%)、「男」331人(44.1%)であった。



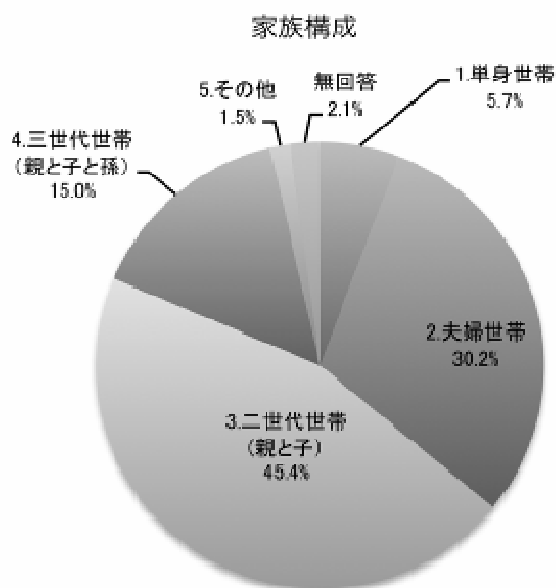
年齢 50代が約4分の1、50代と60代で半数弱

回答者の年齢では、「50～59歳」175人(23.3%)でもっとも多く、「60～69歳」161人(21.4%)がこれに続いた。「40～49歳」146人(19.4%)、「30～39歳」115人(15.3%)、「70歳以上」80人(10.7%)、「20～29歳」52人(6.9%)、「18～19歳」13人(1.7%)であった。



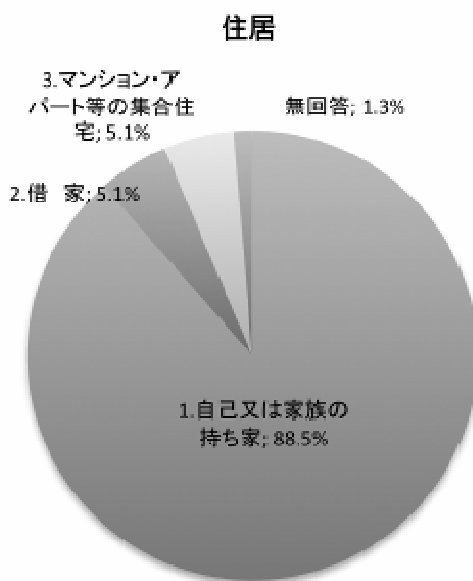
### 家族構成 半数弱が二世世代世帯、3割は夫婦世帯

回答者の家族構成は、半数近くが親と子の「二世世代世帯」341人(45.4%)、次いで「夫婦世帯」227人(30.2%)が多かった。「三世世代世帯(親と子と孫)」113人(15.0%)、「単身世帯」43人(5.7%)、「その他」11人(1.5%)であった。



### 住居 9割弱が持ち家で生活

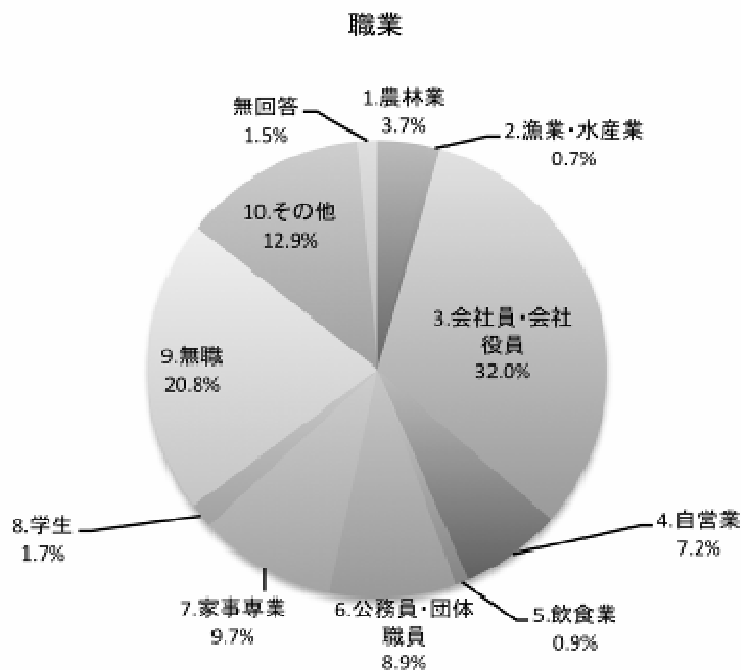
回答者の9割近くは「自己又は家族の持ち家」665人(88.5%)で生活し、「借家」「マンション・アパート等の集合住宅」は38人(5.1%)と少なかった。



職業 3分の1は勤め人、5人に1人が無職

回答者の職業を見ると、「会社員・会社役員」240人(32.0%)が3分の1を占め、これに「無職」156人(20.8%)が続いた。「家事専業」73人(9.7%)は1割弱であった。

「公務員・団体職員」67人(8.9%)、「自営業」54人(7.2%)、「農林業」28人(3.7%)、「学生」、「飲食業」、「漁業・水産業」は少なかった。



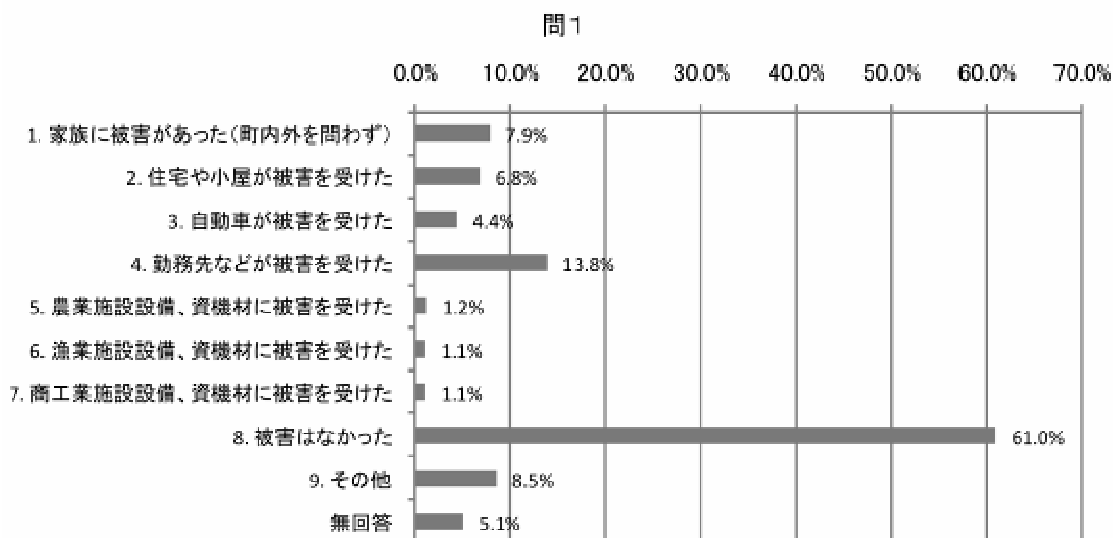
## (2) 被害、被災の状況

問1 あなたは地震・津波によってどのような被害を受けましたか？

- ・ 6割は被害なし、7分の1は勤務先などに被害あり

被災状況を尋ねたところ、6割が家族や住宅への「被害はなかった」458人(61.0%)と回答した。しかし、7人に1人の割合で「勤務先などが被害を受けた」104人(13.8%)

次いで「家族に被害があった(町内外を問わず)」は59人(7.9%)、「住宅や小屋が被害を受けた」は51人(6.8%)、「自動車が被害を受けた」は33人(4.4%)、「農業施設設備、資機材に被害を受けた」は9人(1.2%)であった。「漁業施設設備、資機材に被害を受けた」「商工業施設設備、資機材に被害を受けた」はともに8人(1.1%)であった。「その他」の中では、「停電」という回答が多かった。

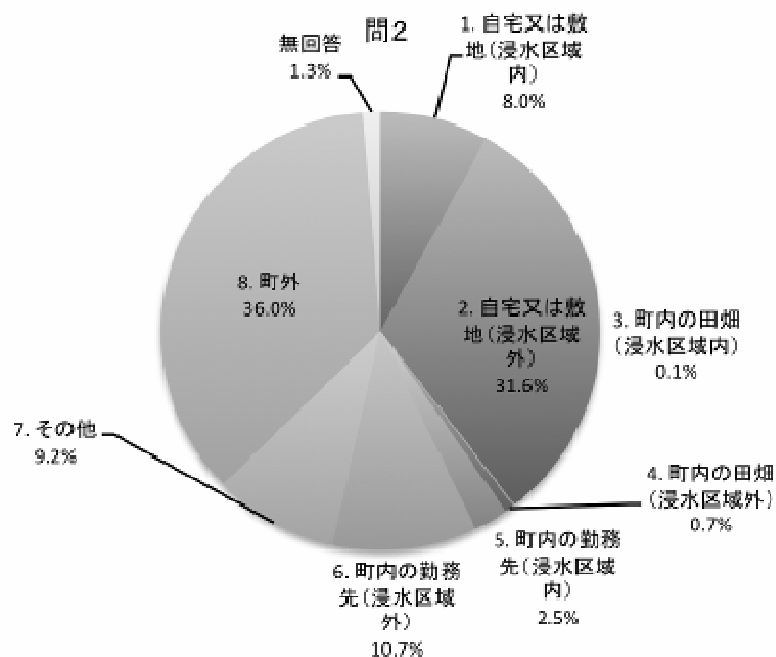


問2 あなたは、今回の地震・津波発生時にはどこにいましたか。

・3分の1強は地震・津波発生時に町の外にいた

地震発生時から津波発生時、どこにいたかを訪ねたところ、3分の1を越える回答者が町の外にいた270人(36.0%)。そのほかは3分の1弱が「自宅又は敷地(浸水区域外)」237人(31.6%)に、1割が「町内の勤務先(浸水区域外)」80人(10.7%)にいたと答えた。「その他」69人(9.2%)も1割近くで、その内訳はスーパー、ショッピングセンターなど買い物中という人が多かった。

これに「自宅又は敷地(浸水区域内)」60人(8.0%)が続き、「町内の勤務先(浸水区域内)」19人(2.5%)、「町内の田畑(浸水区域外)」、「町内の田畑(浸水区域内)」は少なかった。

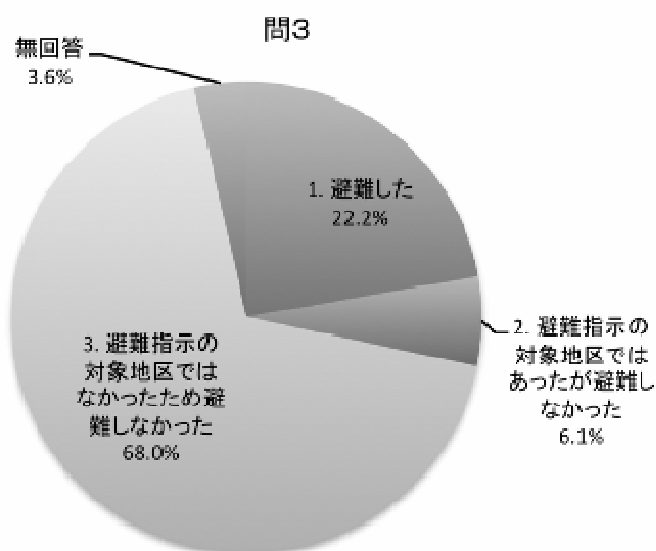


### (3) 避難の状況

問3 あなたは、今回の地震・津波発生時に避難しましたか。

・3分の2強は避難せず

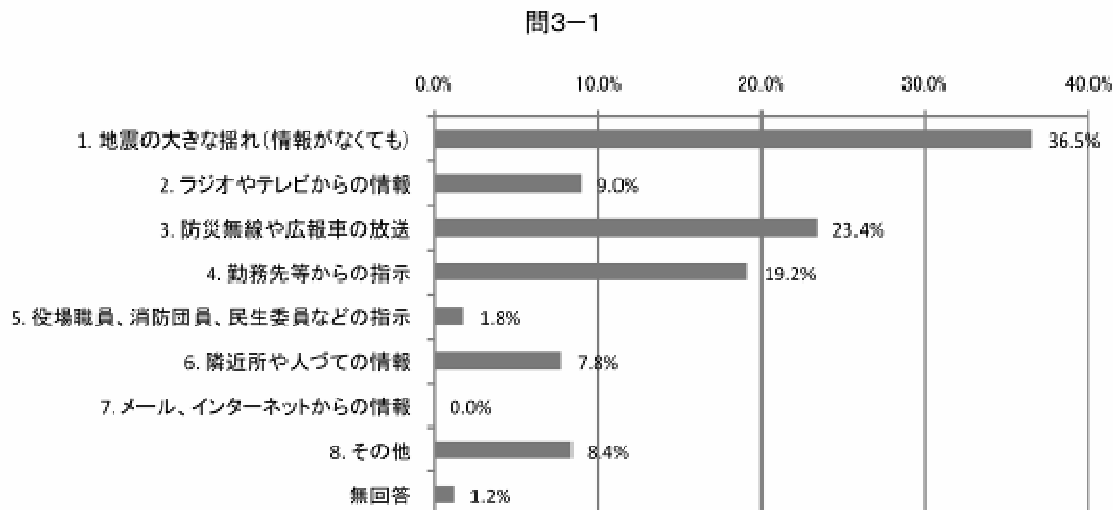
回答者の3分の2は「避難指示の対象地区ではなかったため避難しなかった」511人(68.0%)と答えた。「避難した」人は5分の1強167人(22.2%)であった。「避難指示の対象地区であったが避難しなかった」46人(6.1%)であった。



問3-1 「1. 避難した」と回答した方(167人)にお聞きします。何をきっかけに避難しましたか。

・3分の1強は情報なしで自主的に避難、次いで防災無線や広報車がきっかけ

避難を決めたきっかけを訪ねたところ、3分の1強が「地震の大きな揺れ(情報がなくても)」61人(36.5%)でもっとも多かった。これに、「防災無線や広報車の放送」39人(23.4%)という行政からの情報、「勤務先等からの指示」32人(19.2%)が続いた。「ラジオやテレビからの情報」15人(9.0%)、「その他」14人(8.4%)の中では、家族の指示が多かった。「隣近所や人づての情報」13人(7.8%)、「役場職員、消防団員、民生委員などの指示」は少なく、「メール、インターネットからの情報」はいなかった。



#### (4) 防災意識と情報入手

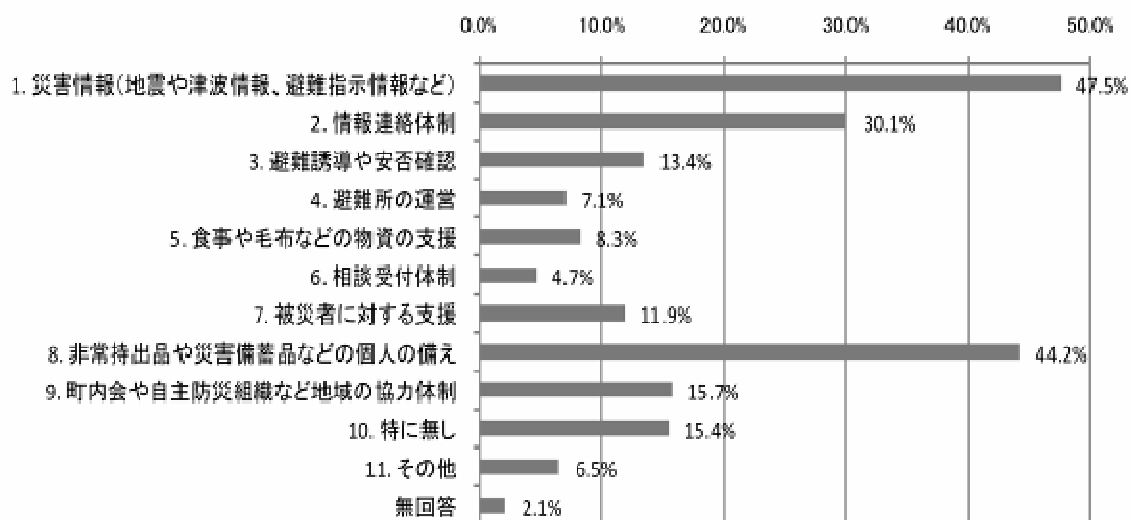
問4 あなたは、今回の震災で何か不足・不十分だったと思ったことはありますか。

・災害情報の入手と個人の備え、連絡体制に不足を感じた

停電やその後も物資不足が続いた中で、回答者が何を最も不足または不十分と感じたかを訪ねた。もっとも多かったのは、「災害情報（地震や津波情報、避難指示情報など）357人（47.5%）」で半数近くにのぼった。これに「非常持出品や災害備蓄品などの個人の備え」332人（44.2%）が続いた。「情報連絡体制」への不足感も大きく226人（30.1%）、この3項目だけで951件と、全回答数（1554）の6割を占めた。

この他は「町内会や自主防災組織など地域の協力体制」118人（15.7%）、「避難誘導や安否確認」101人（13.4%）、「被災者に対する支援」89人（11.9%）、「食事や毛布などの物資の支援」62人（8.3%）などであった。「避難所の運営」53人（7.1%）、「その他」49人（6.5%）の中では、ガソリン不足が15人、灯油不足が6人だった。「相談受付体制」は35人（4.7%）であった。

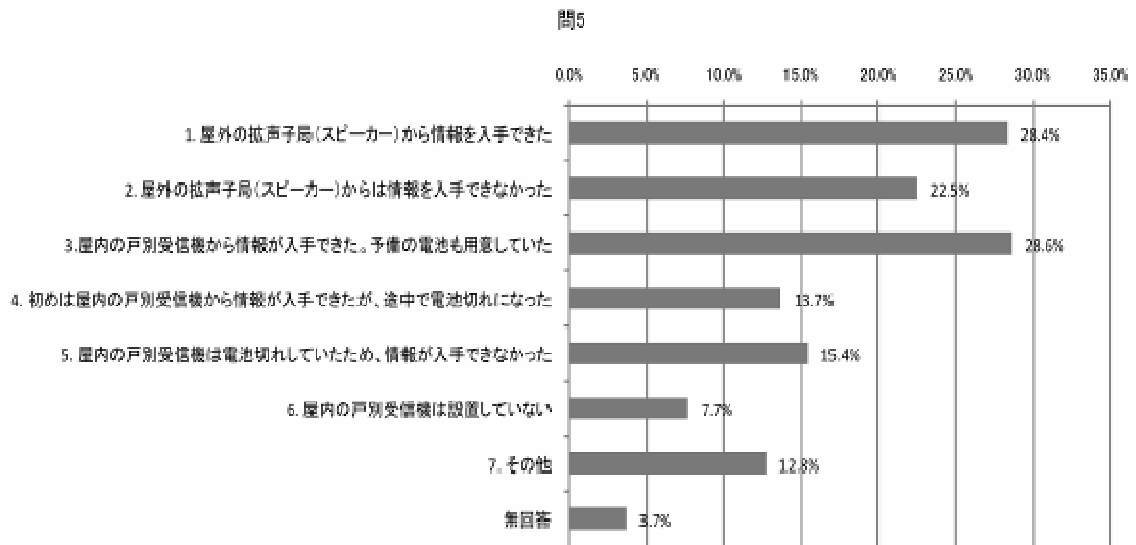
問4



問5 あなたは、今回の地震で防災行政無線放送（屋外、屋内）は役立ちましたか。

・6割弱は無線放送から情報を得た

回答者は防災無線の情報を「屋内の戸別受信機」215人（28.6%）または「屋外の拡声子局（スピーカー）」213人（28.4%）から得ていた。一方「屋外の拡声子局（スピーカー）」169人（22.5%）、「屋内の戸別受信機」116人（15.4%）からの情報を得られなかった人は合わせて37.9%いた。「戸別受信機が途中で電池切れになった」103人（13.7%）は8分の1、「その他」も96人（12.8%）あった。「その他」の内訳は、電池切れに気がつかなかった、ラジオで情報を得たという人が多かった。そもそも「屋内の戸別受信機は設置していない」という人も58人（7.7%）あった。



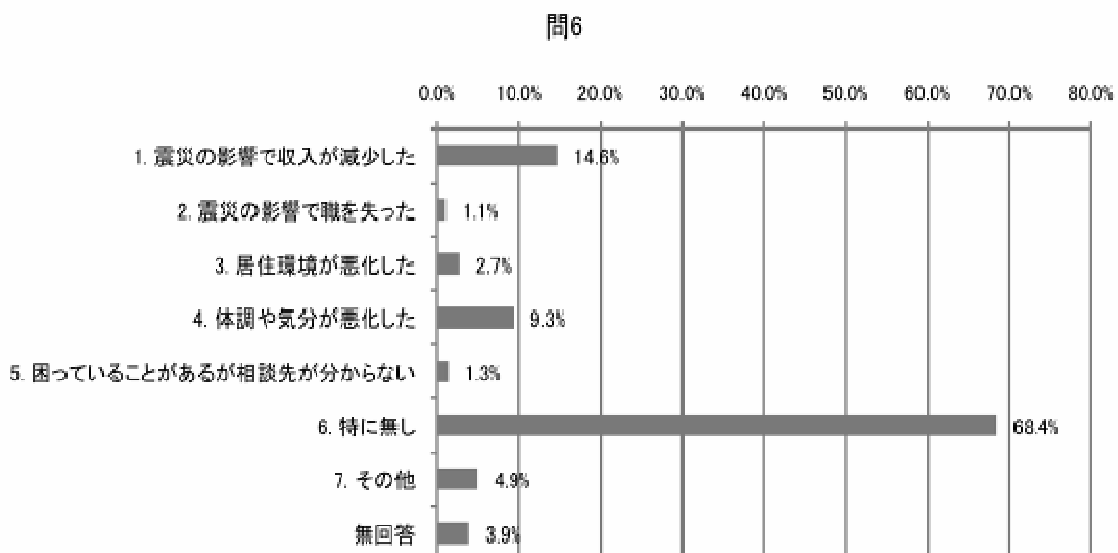
### (5) 生活再建支援と復興対策

問6 あなたは、震災以降、何か困っていることがありますか。

・7分の1が収入減、1割弱は体調が悪化するも、7割弱は特に無し

震災後、困っている事を訪ねたところ、「震災の影響で収入が減少した」人が7分の1あった110人(14.6%)。このほか「体調や気分が悪化した」人も1割近く70人(9.3%)。

しかし、もっとも多かったのは「特に無し」514人(68.4%)で、7割近くはこの時点で平常の生活を取り戻しつつあった。「居住環境の悪化」、「困っていることがあるが相談先が分からない」、「震災の影響で職を失った」は少なかった。「その他」では、「体調の変化」が多かった。





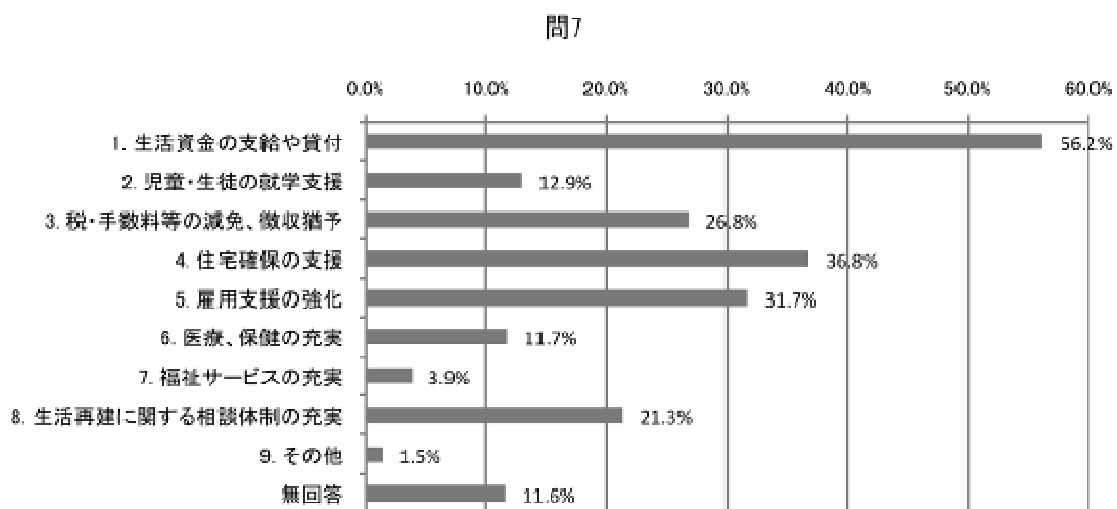
問7 あなたは、被災した方々の生活再建を進める上で、どのような支援策が重要だと考えますか。

・「資金の支給や貸付」次いで「住宅確保」と「雇用」の支援が重要

被災した町民の生活再建を支援する際、どんな支援が重要と考えるかを訪ねた。もっとも多かったのは「生活資金の支給や貸付」422人(56.2%)で、半数以上が資金に関する支援をあげた。これに、「住宅確保の支援」276人(36.8%)、「雇用支援の強化」238人(31.7%)が3割を超えて続いた。

資金の直接支援のほかにも「税・手数料等の減免、徴収猶予」201人(26.8%)が重要と回答した人も4分の1強あった。これに「生活再建に関する相談体制の充実」160人(21.3%)、「児童・生徒の就学支援」97人(12.9%)、「医療、保健の充実」88人(11.7%)、「福祉サービスの充実」29人(3.9%)と続いた。

「その他」11人(1.5%)には、居住地移転の支援、お金の支援より物の支援、という意見があった。



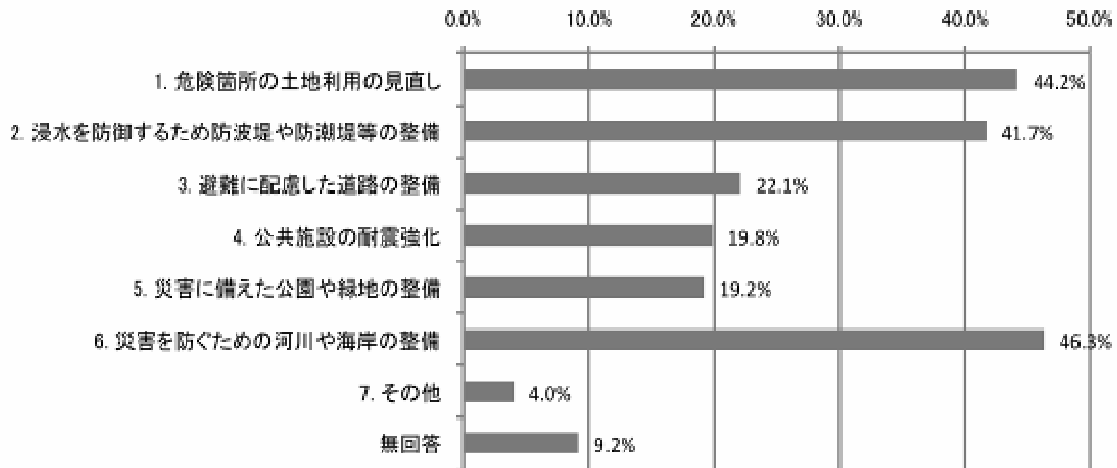
問8 あなたは、今後どのように都市整備を進めれば良いと考えますか。(被災地だけでなくおいらせ町全体として)

・「河川や海岸の整備」と「土地利用の見直し」を半数弱が望んでいる

今後、おいらせ町全体として、どのように整備を進めることが望ましいかを尋ねた。もっとも多かったのは「災害を防ぐための河川や海岸の整備」348人(46.3%)、これに「危険箇所の土地利用の見直し」332人(44.2%)、「浸水を防御するため防波堤や防潮堤等の整備」313人(41.7%)が、ともに4割を超えて続いた。

また、「避難に配慮した道路の整備」166人(22.1%)と回答したのは4分の1弱、「公共施設の耐震強化」149人(19.8%)と、「災害に備えた公園や緑地の整備」144人(19.2%)はともに2割弱、「その他」30人(4.0%)であった。「その他」には、防災マップの作成や旗を掲げる、避難場所の安全見直しなどがあつた。

問8



## (6) 防災対策と地域の役割

問9 あなたは、大規模な自然災害に備えて、日頃から町全体として防災体制の強化を図る上で、どのようなことが重要だと考えますか。

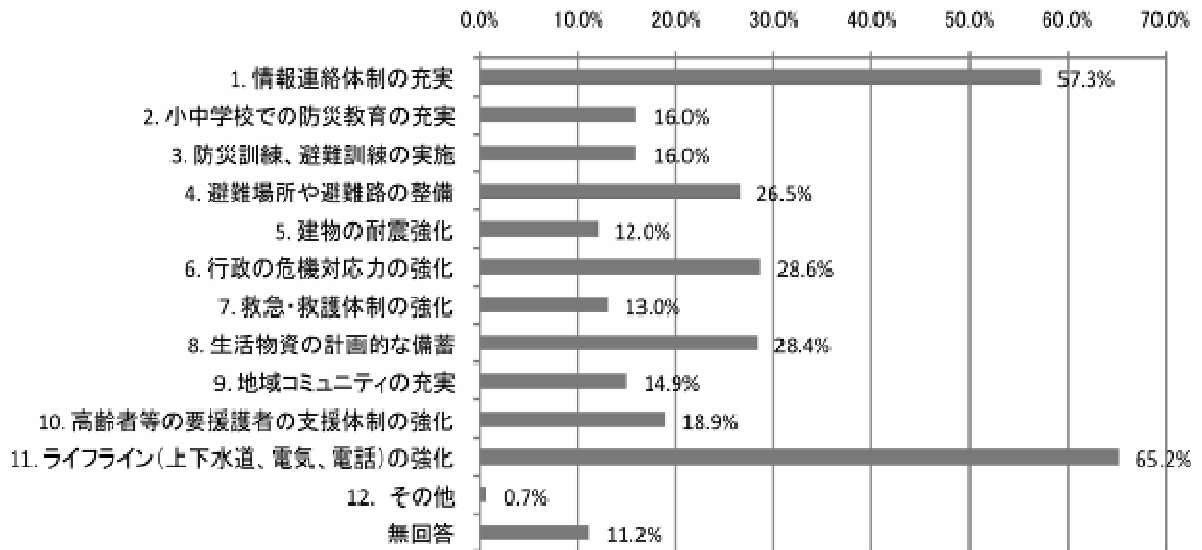
・3分の2が「ライフラインの強化」、6割が「情報連絡体制の強化」を重要視

自然災害に備えて、町全体として強化すべき防災対策について尋ねたところ、回答者の3分の2が「ライフライン（上下水道、電気、電話）の強化」490人（65.2%）と答えた。

次いで6割弱が「情報連絡体制の充実」430人（57.3%）と回答し、この2項目が他を引き離して多かった。

やや離れる形で「行政の危機対応力の強化」215人（28.6%）、「生活物資の計画的な備蓄」213人（28.4%）、「避難場所や避難路の整備」199人（26.5%）が続き、さらに少し離れて「高齢者等の要援護者の支援体制の強化」142人（18.9%）、「小中学校での防災教育の充実」「防災訓練、避難訓練の実施」120人（16.0%）、「地域コミュニティの充実」112人（14.9%）、「救急・救護体制の強化」98人（13.0%）、「建物の耐震強化」90人（12.0%）と続いた。「その他」の中には、町独自の発電供給ポイントを作る（非常時のみ稼働させる）という意見があった。

### 問9



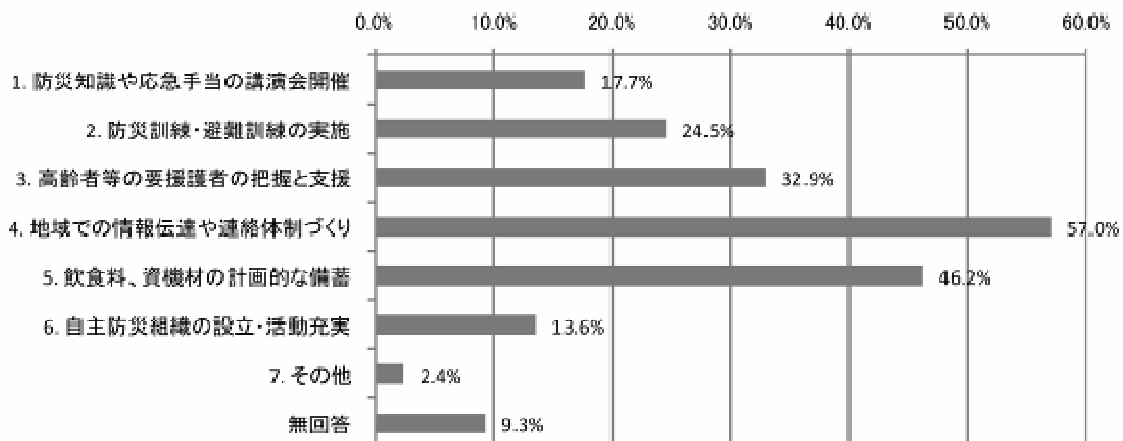
問10 あなたは、大規模な自然災害に備えて、日頃から身近な地域ではどのような活動が重要だと考えますか。

・6割弱が「地域情報体制づくり」、半数弱が「計画的な備蓄」を重要視

自然災害に備えて、地域でどんな活動が重要かを尋ねたところ、もっとも多かったのは「地域での情報伝達や連絡体制づくり」428人(57.0%)で6割弱、次いで「飲食料、資機材の計画的な備蓄」347人(46.2%)が半数弱であった。

「高齢者等の要援護者の把握と支援」247人(32.9%)が重要と回答した人は3分の1、「防災訓練・避難訓練の実施」184人(24.5%)には4分の1、「防災知識や応急手当の講演会開催」133人(17.7%)と続き、「自主防災組織の設立・活動充実」102人(13.6%)を重要とした人はおよそ7分の1であった。「その他」の中には、ハザードマップの明示と避難場所、避難経路の確保明示。小型太陽光パネルとその電気を貯めるための車用バッテリーを供給という意見があった。

### 問10



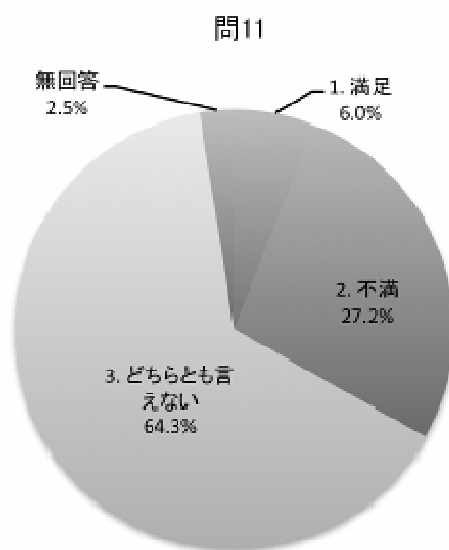
## (7) 防災満足度の4年前との比較

問 11 平成 19 年度に実施した町民意識調査においては、「地震などの災害対策への満足度」という問に対して、満足と答えた方が 11.6%、不満と答えた方が 22.2%という結果でした。東日本大震災を踏まえて、町の災害対策に関してどうお感じになりましたか。

- ・満足がマイナス 5.6 ポイント、不満は 5.0 ポイント増加

4 年前の町民意識調査結果と今回の結果を比較すると、4 年前の調査では 1 割を超えていた「満足」(11.6%)が、5.6 ポイント、増減率では 48.3%減と半減した。

一方、「不満」と回答した人は 4 年前の 22.2%から 27.2%と 5.0 ポイント、増減率で 22.5%増加した。



## 被災者聞き取り調査結果

### 1. 調査の目的

震災復興計画策定に当たって、町民や被災者の意見を反映させるため、被災者から直接聞き取り調査をする。

### 2. 調査対象

東日本大震災の大津波で半壊以上の被害を受けた世帯 66世帯

### 3. 調査時期

8月 8日(月)～8月12日(金)  
9月13日(火)～9月16日(金)(再調査)

### 4. 調査実施世帯

57世帯

聞き取り調査のため、会話を進めていくうちに、質問に対する答えが若干のずれてきてしまう場合があります。

#### 問1 回答者の属性情報

#### 問2 津波によって、住宅以外にどのような被害を受けましたか。

1 人的被害	1
2 小屋	41
3 自動車	26
4 勤務先	6
5 農業施設設備、資機材	14
6 漁業施設設備、資機材	1
7 商工業施設設備、資機材	7
8 その他	
車、バイク、トラクター	18
精神的ストレス	2
体力がなくなった	1
ボイラー被害	1
津波に流された	1
9 特になし	2

#### 問3 地震・津波が発生した時どこにいましたか。

1 家	31
2 会社	4
3 工作中	7
4 町内(家以外)	2
5 町外	9
6 浜	2

#### 問4 地震・津波発生時に避難行動をとりましたか。

行動した場合は、何をきっかけに避難しましたか。

##### 1. 避難した(何をきっかけに?)

1 強い揺れを感じたため、情報無くとも	1
2 防災行政無線や広報車	12
3 ラジオやテレビ	7
4 勤務先	1
5 役場職員、消防署・団、民生委員	6

6 隣近所、人づて	3
7 メール、インターネット	0
8 その他	
親族が迎えにきた。	1
携帯の非常用警報。	1
去年のチリ地震の教訓で逃げた。	1
八戸で仕事していて同僚から聞いた。	1
津波の波が見えた。	2
海が黒くなった。津波が来るのが分かったから逃げた。	1

2. 避難しなかった。避難できなかった。

1 避難指示区域にいなかった	0
2 それほど大きい津波だと思わなかった	2
3 何の情報も無かった。	1
4 その他	
船が心配だったから船で沖に出た。	1
消防が家にこなかった。	1
無線は電波が悪いのか震災前から聞き取りづらい。	1

【避難先についての解答】

- 会社に行って車で寝泊り。
- 違う場所にいる家族の住宅に避難した。
- 貴重品を持って避難した。
- 一度避難したが薬を取りに行ったとき津波にのまれた。まさかくとは思ってなかった。
- 親戚の家に向かった。
- 仕事から一旦帰宅し家から出るときに津波に襲われた。その後実家に避難した。
- 十和田の息子の家に行った。
- 次の日避難所に行った。

問5 震災以降に生活や仕事で困っていること（自由回答）

1. 収入について

年金だけ。	10
震災後2ヶ月仕事なし。	1
間が空くときがある。	1
片付けのため仕事を休んだ。その分の給料なし。	2
農業機械がなくなったため収入減。	1
前より減った。	2
以前から体調が悪く働けない。	1
5ヶ月間収入なし。	1
無収入。	1
トラックなしで仕事にならなかった。	1
減りそうだ。	1
7月から職場復帰できる。	1
4、5月仕事がなかった。	1
財産的被害あり。	1
少しでも地元企業を活用して復興作業できないものか。	1
トップが現場に来て適格に判断すべき。	1
親の残してくれた財産で生活。	1
変わらない。	16
特になし。	5

2. 仕事について

仕事を特にしていない。	2
宮城に行っている。	1
田、畑を失ったのでできない。	1
仕事に戻る。	1
道具などを購入して準備している。	2
何とか大丈夫。	1
流された機械等を購入できないでいる。	2

給料の支払いが大変。(保障がない)	1
今後仕事を探すか。	1
特になし。	16

3. 生活について

友達からの食料支援。	1
仕事少なくなった。	1
小屋の建て直し。	1
住宅も無料で義援金等をもらっているから大丈夫。	1
支払いを延ばしている状態。	1
木も花も塩害で枯れた。	1
土地の塩分を測定して欲しい。	1
物が壊れて購入費用がかかる。	1
食べて行く分はなんとか。	1
車と電化製品もローンで購入。	1
どうしていいのかわからない。	1
税金も払えない状況。(従業員の賃金等も合わせて二重苦)	1
被災による出費で苦しい。	2
貯金を崩しての生活。	4
就職したい。	1
妻の年金だけなので苦しい。	1
井戸に海水が流出した。ポンプも海水で使用できない。	1
特になし。	20

4. 体調について

気持ち、頭が変になりそう。	1
夜眠れない。	1
血圧があがったが今は落ち着いてる。	1
不安。	4
子供が海嫌いになっている。	1
最初は死にたいと思っていたが家族や親戚の励ましで何とかなってきた。	1
常に揺れてる感じ。	2
親が亡くなってる事のショックが大きいのでそちらの影響。	1
精神的ストレス。	2
安定剤を飲んでいる。	1
ノイローゼ気味。	1
体調あまりよくない。	1
特になし。	24

問6 今後生活していく上で、どのような支援があればいいか(自由回答)

1. 生活面について

町民税の減免の手続きもまだ。一回でまとめて手続きできれば。	1
風呂もトイレも自分で修繕した。	1
畑にガラス破片等のごみがあり、片付けてもらいたい。	1
生活資金の支給や貸付。	1
今後年金がしっかりもらえるかが不安。	1
今まで見えていた風景が変わって寂しい。	1
生活していくのが大変。	1
家財の買い換による助成。	1
貸りてまでは生活費はいらぬ。	1
医療費は助かっている。	1
貸付 年寄りには返済は無理。	1
小屋の土台の撤去。	1
支援制度が多くてどれを申請したらいいのか分からない。	1
雇用促進住宅に入っていた時のガス代、電気代がきつかった。	1
医療費が心配。	1
住居の確保をするための支援をしてもらいたい。	1
特になし。	18

2. 仕事について

今後ネットを活用したものは興味がある。	1
共働きでなんとか生活している。	1
個人単位での支援。	1
必要性を感じていない。	1
自営業に対する支援。	2
農村の対応が遅い。	1
田植えが遅れた。	1
自分ができる仕事を探したい。	1
農業、漁業に援助があれば仕事を続けたい。	1
雇用支援の強化。	1
就職先が全くない。	2
仕事を与えて欲しい。	1
特になし。	12

問7 住宅の再建で困っていること

1 住宅を再建する資金が無い	9
2 二重ローン	2
3 被災した場所に再建したくない。高台に移転希望	3
4 同じ場所に住み続けたいが、津波が心配	16
5 その他	
資金を少しずつ援助してもらってる。	1
今住んでいるところの改修ができていないでいる。	1
同じ場所であれば、安く建てられるができれば住みたくない。	1
息子の家の隣に建てる予定。	1
今後どうするか検討中。	2
リフォーム済み。	2
本心は今の場所にいたくない。(現在、家のローンが残っている)	1
高台に移動したいけど資金。	1
6 特になし	8

問8 住宅を再建する上での支援策の要望

1 被災した家の住宅ローンを帳消しに	3
2 再建する住宅ローンの利子	7
3 別な場所に移転するための援助	16
4 別な場所に移転するための土地利用規制の緩和	10
5 津波が越えてこないように防潮堤のかさ上げ	23
6 その他	
一川目にて土地を購入したが、畑であるため農業委員会、県の許可が必要で土地の取得には数ヶ月かかりそう。	1
高台への移転は考えていない。	1
今のところ修繕は考えていない。	1
流されたところにはもう住みたくない。	1
子供を安心させられない。	1
2mくらい高くして欲しい。	1
地区のコミュニティを壊さないように。	1
7 特になし。	6

問9 被災住宅の再建は

1. もう終わっている。現在行っている

1 もとの場所に建て替え	6
2 被災した住宅の修繕	21
3 町内の別の場所に移転新築	0
4 町外に再建	0
5 その他	



本当はリフォームしたい。	1
シャッターは直した。	1
大きな被害なし。	1
災害保険を見直した。	1
フローリングにする。	1
コンクリート基礎、まだ手付かず。	1

## 2. これから再建予定

1 もとの場所に建て替え予定	2
2 被災した住宅の修繕の予定	4
3 町内の別の場所に移転新築の予定	4
4 町外に再建する予定	0
5 住宅の再建は行わず、町営住宅や民間賃貸に入居予定	0
6 家族などの家に住む予定	0
7 その他	
支援があればいい。	2
増築 10月より開始予定。	1
洋光台団地を購入、移転予定。	1
農地転用の手続きをしている（松原地区）	1

## 3. まだ予定は無い

1 まだ予定は無い	11
-----------	----

### 問10 住宅の被害のほかに家財への被害があったか

1 あった	45
2 なかった	7

### 問11 避難にあたり不足していたもの

1 浸水区域を事前に把握していなかった	10
2 避難所の場所が分からなかった	1
3 どの道路を使って避難すべきか分からなかった	2
4 家族や隣人の安否を確認する方法がなかった	5
5 その他	
防潮堤のかさ上げ部分とかさ上げされていない部分の境目あたりに家があり防潮堤の恩恵を受けられなかった。	1
電話通じず。	1
連絡方法、体制。	1
避難所には発電機を置いて無線を聞けるようにしたほうがいい。	1
安全な町づくり。	1
避難所までのルートに心配がある。 2	2
無線放送がたりなかった。	1
外灯が少ないため避難する際に危険。 2	2
標識等がない、道路が狭い。	1
防災無線が通じず電池を入れることすら知らず不通に情報を得られなかった。	1
自分たちで避難するという判断ができなかった。	1
避難所への送迎を希望。	1
現状では満足している。	1
6 特になし。	14

### 問12 避難所で不足していたもの

1 避難所の広さ	18
2 ストープ	6
3 毛布	2
4 食事	2
5 トイレが和式	4
6 相談受付体制	5
7 町内会・避難者同士の協力体制	4

8 その他	1
大きな発電機。	1
初日は工業団地の人達が多くて中に入れなかった。	1
初めの2日間は人がいっぱい入りきらず外で火を燃やして暖をとっていた。	1
都度、避難の無線になるたびに寝たきりの人を移動させるのが見てて大変そうだった。	1
入浴サービスの時間が短かった。	1
最初は何もなかったが徐々に用意されていった。	1
電気の復帰が遅れた。	1
対人関係でストレスがたまった。	1
職員がきちんと配分しなかった。(食べ物のことか?)	1
明確な回答をえられなかった。	1
役場の対応が悪い。	1
何で町会議員がこないのか。	1
米が足りない。	1
雇用促進で犬を飼ってるひとの取り締まり。	1
携帯の充電ができなかったのが不便。	1
ペットがいたから避難所には行かない。	2
支給された布団が子供用。(薄くて寒い)	1
支給された食器が汚れていた。(渡す前にチェック)	1
最低限の清潔さを保ってほしかった。	1
避難所にご飯あるからおいでと言われ行ったが人数分しかないと言われた。	1
町内会ががんばっていた。	1
一晩のみだったのでよくわからない。	1
生活館のトイレが古いので直して欲しい。	1
缶詰に多少不満あり。	1
9 特になし。	8

問13 大規模な自然災害に備えて、町の防災体制の強化を図る上で重要だと思うこと

【ハード】

1 浸水を防御するための防波堤や防潮堤等の整備	42
2 避難に配慮した道路の整備	10
3 災害を防ぐための河川や海岸の整備	15
4 災害に備えた公園や緑地の整備	2
5 避難所、避難場所の整備	14
6 一時的に避難できるタワーやビルの整備	6
7 ライフラインの強化	17
8 その他	
水門の隙間から水が来た。	1
明神山だと横に逃げる事になるので本町方面に逃げる方法がよいのでは。	1
逃げ道が一つしかない状態になった。	1
水門を閉めたので近くの地区の人はより大きな被害を被った。	1
ガソリン不足。	1
井戸水は茶色で飲めない、くみ上げできない。	1
海岸部一体をつなげること。	1
一番希望は集団移転かな。	1
9 特になし。	4

(ソフト)

1 危険箇所の土地利用の見直し	9
2 情報連絡体制の充実	11
3 小中学校での防災教育の充実	6
4 防災訓練、避難訓練の実施	15
5 行政の機器対応力の強化	10
6 救急・救護体制の強化	4
7 生活物資の計画的な備蓄	11
8 地域コミュニティの充実	5
9 高齢者等の要援護者の支援体制の強化	15

10 その他	
避難場所の見直し。	1
住民の危機感が不足。	1
原発の方で経済が悪くなる不安がある。	1
身体が不自由な人も避難生活しやすいようにして欲しい。	1
年寄り2人なので役場、消防で救助、避難誘導して欲しい。	1
避難訓練を頻繁にやると参加者がすくなくなるかも。	2
消防だけでは対応しきれない。	1
町の対応はよかった。	2
動物がいても大丈夫なところがいい。	1
防災無線が使えない状態になった。	1
普段は一人しかいない(車椅子でしか動けない)迎えに来てくれる対応。	1
駐車場が狭い、みんな車で避難してくる。	1
チリ津波の教訓をもっといかすべきだった。	1
備蓄管理が問題。	1
子供への配慮。	1
ご飯が届くのが遅い。	1
11 特になし。	1

問14 10年後の町、地域の姿に望むこと

防災対策がしっかりした地域。	2
今は考えたくない。	2
地域コミュニティの輪をつなげていきたい。	1
河川、防波堤の強化。	1
安心、安全な町づくり。	4
明るい町にして欲しい。	2
年寄り若い人と理解して欲しい。	1
手を取り合えるような町にして欲しい。	2
福祉施設の誘地を、道の駅を。	1
地域づくりをうまくやって、若い人が多い町。	2
使えなくなった土地の利用。	1
地域については移転する立場なので何も言えない。	1
被災した人たちは誰もここに住みたくないと思う。	1
今は明日のことを考えるだけで精一杯だ。	1
意識が薄れないようにして欲しい。	1
被災者が戻ってきて欲しい。	1
川口地区の集団移転。	1
今のような被害のない町に整備して欲しい。	1
被害者にはすぐ来て話をしたい、そういう体制をとって欲しい。	1
警報で即逃げる意識の強化。	1
まだピンとこない。	1

問15 これまでの設問以外で(自由回答)

職員によって言うことが異なる。
職員が家に来たが様子を見るだけで写真をとらない。
町長の視察が遅かった。
水門の整備、点検、津波のときにしまっていなかったのでは？
遊楽施設が必要 高速も近くにあるため集客可能。
津波で流されてきたものは勝手に動かさない。災害なので融通を利かせて欲しい。
捨てるものと捨ててはいけないものを区分していたが、捨ててはいけないものを業者が捨ててしまった。
何をやるにせよ、事前に連絡が欲しい、仕事を急に休むのは大変だった。
地震保険の加入が必要。
生活、復興支援金の助成は安いのではないかな？
人間に差別なく、思いやりのある町になってもらいたい。
持っている畑に住宅を建てられるようにしたい。
避難誘導が遅かった。
放送は何回もしつこいくらいの方がよい。
支給内容の差に納得できない面がある。

被害の判断基準が不明。
新築した人が移転に応じるのか疑問。

問 1.6 国・県・町に求めることは(自由回答)

県の職員でおいらせ町が被災した事実を知らない人がいた。
塩害対策。
税金が高すぎる、もっと安くしてください。
助成金の増額。(2人)
こわれたものをはやく直して欲しい。
要望してもムダ。
原発事故を見て六ヶ所の原燃を近くにもつ町として不安である。
分庁者で全て用事が済むようにして欲しい。
生活道具、植木への支援制度。
どんなに高い防波堤でも越えてくる可能性あり。
低い土地に土を盛って高くして欲しい。
危険箇所の見直し。
防潮堤の強化に金をかけるよりも危険な箇所の住宅の移転補助に回すべき。
問い合わせをすると「今やります」出来ないのなら出来ないと言って欲しい。
地域単位での津波対策を考えて欲しい。
八戸、百石の境にテトラポット等設置をお願いしたい。
津波の被害は岩手、宮城を見ると河川の流域河口付近湾によって違いがある。
行政区を越えた取り組みを。
行政側で出来ることを早期に明確にして欲しい。
町でできる手続きをを省いてやってもらいたい。
自分たちでできることは自分たちですぐ動きたい。
水門の操作講習もお願いしたい。
がれきの撤去が4月から7月になった。
電化製品の配布を早くして欲しい。
避難所での入浴をもっと早く対応してほしい。
行政でやれるものを責任をもってこれはいついつまでにやります、これは出来ませんを明確に。
通行止めをしてる消防の人も1時間後にはいなくなってしまった。誰が規制するのか？
テレビ、ラジオで避難解除でてるのに問い合わせでも役場はまだ待ってくださいしか言わない、後になってようやく解除の放送がかかった。
震災前から水門をよく動かしているがなんのためか？日本ハムは避難が早かったように思うがど ういう情報網が？
松林(国有)死んでいるのであれば片付けて欲しい。
再建の際の手続きにかかわる諸手当の支援をして欲しい。
生きているだけで充分満足。
エコポイントの復活、被災者の中でも格差が生じてる、そこを考えて欲しい。
土日、開庁して欲しい。開庁でなくても簡単に証明書関係がとれるようにしてほしい。
どこに相談したらいいのかわからないので総合窓口的な部署を作って欲しい。
早めに復興を。
一度きめたことをひっくり返さないで欲しい。
防波堤が出来るのを待ってられない。
会社に対する支援を求める。
防波堤をはやく建設して欲しい。
川からの防御も検討して欲しい。(2人)
アンケートの意味がない。
銀行でお金をおろせない。

## 地区懇談会の結果

### 1. 目的

震災復興計画策定に当たって、町民や被災者の意見を反映させるため、住民からの意見を求める機会をつくることにしている。その手段の一つとして住民懇談会を実施する。

### 2. 実施方法及び参加者数

町内5小学校区で実施

8月22日(月)	甲洋小学校区	甲洋小学校	2人
8月25日(木)	百石小学校区	みなくる館	20人
8月26日(金)	下田小学校区	本村伝承館	14人
8月29日(月)	木ノ下小学校区	北公民館	14人
8月30日(火)	木内々小学校区	中央公民館	4人
10月13日(木)	甲洋小学校区	一川目地区生活会館	18人

時間はいずれも18時30分から

8月22日 甲洋小学区 / 甲洋小学校 (参加者2人)

参加者の意見	意
参加者からの質問	質
質問に対する答え	答

意 被災者に連絡がつかない。

意 被災地域の班が消滅する...コミュニティの存続の問題。

質 一の川の川下に砂がたい積している

答 管理が県になっているので後で確認する。

質 震災の時に町内会に全く連絡がない。どうなっているのか？

答 連絡体制が整っていない現実。混乱していて連絡できなかった。

- ・連絡体制についてのマニュアル作りをしていく。態勢を作っていく。
- ・計画の中で考えていく。

質 町内会と町との関係をどのようにしていくのか。

答 自主防の組織化を考えていく。

- ・町内会ごとに対応が違う。町内会との打ち合わせも必要。

意 地域づくりの原点は防災である。町に頼っては何もできない。地域に足りないものを町に頼む。小さい町内会は意思の疎通が図りやすい。

質 災害の検証しなければならない。

答 計画、マニュアルに的確に対応出来たか？

- ・常に訓練をして、計画を作っても魂を入れなければならない。
- ・すぐ停電、情報が伝達できなかった。
- ・現場に出ると連絡が取れなくなった。
- ・あらゆることを想定した計画を作らなければならない。
- ・不備があったところを改善する。
- ・検証はご指摘のとおり。今は生活再建を集中してやっている。課題抽出作業をする。
- ・計画があっても実際は動けない。マニュアルの整備が必要。

質 八戸大学の教授が20mの波が来ると推定している。防潮堤と堤防のかさ上げ、避難場所と避難路の整備が必要ではないか。

答 20mの防潮堤は難しい。減災、多重防護の視点で防災まちづくりをしていく。

意 今回も含めて、過去に津波3回も遭っている。

- ・「さめの先が黒くなれば津波が来る」と言われている。
- ・津波は怖いものだ。
- ・放送の仕方が悪い。もっと強い口調で放送すること。

意 今回は断水がなかったからよかったが、水道がダメになったらトイレが不足する。災害用のトイレも考えて欲しい。

- ・鹿嶋が液状化。鹿嶋では避難場所にばらつきがあった。
- ・川の堤防のかさ上げの前に、川の土砂の浚渫しておくべき。
- ・防災無線、情報の一極集中が必要。
- ・防災無線が電池があっても赤ランプがついている。設置後年数が経っている。点検して欲しい。
- ・ボランティアセンター立ちあがらなかった。

答 社協では立ち上げたが、状況が見えなかったため、個人にはすぐにお問い合わせできなかった。米軍などすぐ動ける団体にお問い合わせした。シルバーを使った。

- ・社協とも話をして反省した。担当が野田に行って勉強してきた。

意 復興計画は二段階で考える必要あり。ハードとソフト。

- ・役場だけでは対応できない場合に、町内会はどう動かせばいいのか。
- ・高齢者、障害者はだれが面倒見るのか、町内会に情報ない。
- ・ボランティアで他の被災地に行っている人からも情報を聞き取りしたらいいのではないか。

意 避難所に人があふれていた。

- ・避難誘導が必要。
- ・動けない高齢者をつれていく方法。
- ・消防車で広報したらどうか。

意 洋光台も避難所としてコミセンをオープンした。コミセンの前の防災無線のバッテリーが切れていた。地区からも戸別に伝達できるようにして欲しい。

- ・これまでの防災訓練は役立ったか？ 地元にあった訓練を。

意 役場の職員が動きすぎ。シルバーを活用してはどうか。

意 民生委員には要援護者名簿があるが、町内会にも要援護者名簿を。

意 懇談会の開催時期が遅いのではないかと、もっと早く開催すべき。

意 藤ヶ森の生活会館に避難しろと言われたと聞いた。ここも川からの越水が危ない。

意 自分は町内会の役員だが、サラリーマンなので役に立たなかった。

8月26日 下田小学区 / 本村伝承館 (14人)

参加者の意見	意
参加者からの質問	質
質問に対する答え	答

意 本村に住んでいて危険に思っている、奥入瀬川が大雨で決壊すれば本村地区は全壊する。

・何mmの降水量があれば堤防越えるか？

意 過去の災害の記録からそれを災害にしないように対策をとって欲しい。

・過去には、阿光坊で堤防切れている。

・十勝沖地震、道路陥没した。

・S34 台風で橋が流された。

・避難所が新敷、洗平は下田小になっている。橋を越えて避難しなければならない、危険だと思う。

・下北の方には沿線に、海拔を示したもの(看板)が掲示してある。集会所だけにでも表示して欲しい。

答 今年度県で数箇所だけどやることになっている。

・下田小は11.4m、3階まであがると19m。

質 今までの歴史でこの辺で一番高い津波は何mか？

答 調査した上でそれを想定して計画作っていかなければならない。

・記録的にははっきりしたものがないのでは。

意 下田小では親に何時に返すと言ったのに、親が迎えに行ったらもう返した後だった。親が不満に思っている。

答 学校は、子供だけでは帰さない。先生がついて帰る。

・百石小では地震の前に子供が帰っていた。家にいるときの対応も考えた方がいい。

質 復興計画と総合計画との整合性は。総合計画の計画を直すこともあるのでは

答 現実に合わせて直していく。

意 ハードの部分は、事あるごとにスケールアップしていく傾向にある。

・防潮堤を高くとは望まない。避難路の整備が必要。

・すぐに逃げるという習慣をつける訓練が必要。

・放射能に対する正確な情報が必要。

・避難所の満足度は、あのような事態なので、あまり深刻に考える必要はないのでは？

・ハザードマップとの比較での逆流はどうか？

- ・放射能について、県の対応を待っているのではなく町で1台でも買ってはどうか？
- ・町民の共同、情報の共有が必要、停電しているときは一層不足していた。
- ・被災地とはいいながら、こちらでは関係ないと感じていた。
- ・合併特例債が延びた。

答 コントロールする側の体制が整っていない。

- ・避難所の不満は、職員側の対応がうまく行かなかった部分、職員の役割が必要。
- ・放射能 データ取得する手段必要。一番近いモニタリングポストは三沢市。9月補正に1台分予算計上している。
- ・放射能について詳しい知識ない。改めて勉強していかなければならない。
- ・青森にも原発がある。事故も想定される。
- ・特例債5年延長（現在は10年）になった。当町も対象。しかし、災害の整備に使えるのかの情報ない。

意 役場のOBも使っているのでは？自衛隊のように。

答 折り込んだような対策も必要かな？

質 ジャスコとは協定結んでいるのか？

答 結んでいる。

- ・燃料の協定は結んでいなかった。協定は必要だ。各企業との協定（あらゆる分野）必要。

意 防災無線が情報源なのに、屋外の子局が2ヶ所から1ヶ所になった、外にいる人もいる。外では聞こえない。何で減らしたんだろう。と言われている。

意 本村地区に交差できない橋がある。震災来れば阿光坊の方に行くと思う。渋滞して通れなくなったら本村はどこにいけばいいのか？安心して避難所にいける道路、橋が必要。

- ・県道に退避所を作ってもらえるように県のほうに言って欲しい。冬は車もすれ違えない。
- ・田の団地化、個人の負担を町で払って、1町部田にして担い手を集積してはどうか？
- ・下田小の児童が減っている。あと何年かで100名を切る。今年の入学生は14名。

8月29日 木下小学校区 / 北公民館（14人）

参加者の意見	意
参加者からの質問	質
質問に対する答え	答

質（説明に対して）ワークショップ、パブリックコメントとは？

答 ワークショップとは、色々な考え方、個人の知識、グループを作ってテーマを定めて自由に意見を出して作業する。パブリックコメントとは、原案が出来たら公表して、それに対して意見を募る。意見に対して、町は返事をする。

質 戸別受信機の電池が切れてしまったが、電池を入れていればどれくらい情報が入ったのか？

答 住民の皆さんから情報が足りないといわれている。

- ・どの時点でどの情報が必要かというマニュアルもない。今後は用意する。
- ・「常に電池を用意しておくように」との呼びかけが必要。

意 有効な情報がなかった。

- ・全体に流していたか？（答 沿岸地域のみ）全体に流してのいいのではないかな？



質 漁船の流出、破損があったが、何隻くらい沖に出したのか？

答 漁船登録 43 隻あるが、1 隻が沖に出た。

- ・「こんな大きな津波が来るとは」と言っていた。
- ・陸の状況が分からなくて不安だったという話も。
- ・津波が来たら沖に出るとは漁協でも言えない。

意 弱者について何も書かれていない。町内会では弱者は把握していない。町と町内との連携が必要。

答 1800 人分位の要援護のリストがあるが個人情報で難しい。

意 家族と暮らしていても、日中は若い人が動きに出ている。日中は一人暮らし。課題ではないか。

質 町と町内会との連携は？

答 民生委員、町内会、消防団などの連携する方法を考える必要あり。

意 行政だけではできない。町内会がやらなければならない。町ではこの仕組みを作らなければいけない。これこそ大切。

答 町としても問題意識を持っている。

意 個人情報の難しさは分かる。大災害時はそうは言っていない。

- ・町内会では一人暮らししている人を把握できない。
- ・同意をこばむ人には、徹底して説得する。工夫すればなんとかなると思う。

質 地震被害はあったか？

答 大きな被害は出ていない。

意 断水があるとかかなり大変だったと思う。下水が止まった。

- ・古間木山集会所に避難した。携帯の充電に来た人が多かった。
- ・隣近所との付き合いが大切。
- ・高齢者だけではなく、若い人でも不安がっている。
- ・要援護者の把握は、民生委員だけでは大変だ。町内の組織を使ってやらなければならない。
- ・井戸水は貴重。井戸掘るかという話を連合でも話していた。

意 海拔の表示をして欲しい。古間木山で 55m 位かな。

答 木ノ下小 52m、木ノ下中 42m。

意 アンケートが25日の集計結果になっている。今月末までの期限なので全てそろわない時点でやるのではなく、きちっとした数字でやるべき。

- ・聞き取り調査は、なぜ全世帯に聞き取りが出来なかったのか。
- ・公共土木施設の被害復旧したものがある、その状況を知りたい。
- ・被害総額は16億7千万円。車やフードパッカー資材の被害額が出てこない。計算に入れないのはどうか。できうる限り算定して入れたい。
- ・防潮堤など原形復旧、防潮堤のかさ上げは不可能 避難路の確保必要。いかに避難するか、住民の意識。
- ・短期計画を8月末に完成させるのは無理ではないか。
- ・ハンドブック新たなものを作って配ることも考えなくては。

質 木内々小学校は指定避難所になっている。震災当日の19時頃に1名が避難してきていた。電気もついていない。なぜか？

答 避難勧告・避難指示が出たエリアに避難所を開設したため。

質 公共下水道施設の被害。曙地区はいつごろ復旧できるか？

答 物が入ってこない。詳しくは後で。

質 被害額に対して、どの位の補助があるのか？

答 一つひとつ積み上げれば出るが今は数字がない。

質 避難の際に車両での避難が問題になっている。車両の場合、避難路を明示したものの方がいいのでは？

答 車両で避難しないが基本、道路が渋滞する。車の避難前提とはいかない。車用の表示については検討する。

質 地震保険加入の奨励をした方がいいのでは、加入に状況は？

答 調査していない。個人の保険なので奨励は難しい。保険料もかかる。

質 木内々小のソーラーが使えなかったと聞いたが。

答 学務では把握していなかった。調査が必要。

質 木内々小にはどれくらいの物が備蓄されているか？

答 備蓄していない。各学校への備蓄は今後検討して考えていく。

意 間木のコミセン、発電機借りて炊き出しした。発電機で携帯の充電もした。最低限コミセンには発電機があればいいかな。

答 全ての集会所に必要なかどうかは検討が必要。今後検討。

意 町民は避難所(4種類ある)を一緒に考えている。違いをお知らせも必要ではないか。地震保険のアドバイスくらいしてもいいのでは

質 地震、津波で被害を受けた人に町からの支援金の合計は。

答 二人世帯、家の再建で6,510,000円

質 岩徹養豚への支援、テレビでは行政は何もやっていないと放送されていたが。

答 実際には何もやっていないということではない。死亡豚の回収、重機の補助した。がれきの撤去には国の支援がなかったが、ボランティアを投入したり、町としてはかなり支援してきたと思っている。

意 防災無線で避難指示にうるさいと言った住民がいた。なさない。

質 被災者が片付けや復旧をしていた。団体でなければボランティアを受付していないのか？ボランティアの呼びかけがなくて残念。

答 ボランティアに依頼する内容が当初はハードなものが多かった。がれきの撤去、網の回収、岩徹養豚の片付けなど。個人の方が必要な場合は声を掛けて名簿の登録をしていた。

質 手作業が必要な方々へはボランティアの要請が必要だったのでは？

答 ボランティアのマッチングは難しい。町も把握するのがうまくいかなかった。反省すべき点、検討して計画に盛り込んでいく。

質 ボランティアセンターなど民間を活用するなどシステムづくりが必要だと思うが。

答 社協がボランティアセンターを作る。担当が野田村へ研修に行ってきた。システムづくりをしていきたい。

質 あと1mでも津波が高ければ本町地区でも越えていたと思う。本町地区ではどこに避難すればいいの？

答 百石地区の人たちは危機感を持った。

意 百石道路に避難も考えた方がいいのでは？

- ・みなくる館は標高低いのでは？

質 うちの集会所は電気、水も使えなかった。町内会ごとに違うと思うので、どこどこ町内はどこどこに避難しろと知らせた方がいいのでは？

- ・防災ハンドブックをもう一度配って欲しい。
- ・町内会での自主防災訓練について、文書配布して欲しい。
- ・最後は本人の気持ち次第、本人をその気のさせるのは町の仕事。

答 自主防の組織化、ハンドブック重要。避難所の違い、考え方を教える必要あり。

意 百石高校の食物調理科が全国放送になった。こういうときだからこそ防災無線でテレビを見ましようという放送をするべきではないか。

答 防災無線の使い方は難しい点もある。

10月13日 甲洋小学区 / 一川目地区生活会館 (18人)

参加者の意見	意
参加者からの質問	質
質問に対する答え	答

意 不満足と回答した人が27.2%もあったが、これは被災者以外も回答者に含まれているからではないか。この結果がすべてとはいえないと思う。この質問項目自体が不要だと思う。

質 防潮林の復旧、半分が私有地、半分が国有林。どのように整備するのか。

答 県が今年度から整備することになっているが、どのようにという情報はきていない。

意 当日、工業団地にいた。ラジオでは津波1mといていたが、何回も情報が変わった。

- ・堤防が切れている。これによって被害が拡大した。一挙に入ってきた。
- ・かさ上げした分で相当助かったと聞いた。

答 堤防は三沢の境まで伸ばすよう県で事業認可申請している。認可が下りたら事業。

- ・最初は原型復旧である。復興計画に載せて県に要望する。

- ・他の市町村より延長を長くしてもらっている。
- ・防潮林の復旧に関しては全国的な悩み。

意 川のあたりで雑談していた。逃げろとしつこいくらい放送されたので逃げた。町の対応は良かったと思う。

質 電気が止まったために冷蔵庫の中身が悪くなった。個人の被害額は入っているか？

答 個人の被害額は入っていない。

質 防潮水門の管理は。

答 県の管理。

意 高波で一の川がすぐに浸水する。

- ・やませで水門の前に砂がたまって流れなくなる。
- ・浚渫しても同じ繰り返し。川の高さを高くしてもらいたい。

答 これまでも県に改修を要望している。今後も強く要望する。

意 ガレキ、ヘドロ、漂流物で道路が遮断された。火事や救急が心配だった。町も初めての事であったと思うが、町の対応は良かった。2～3日で道路を通れるようにしてもらった。道路沿いに住む住民はありがたがっている。

意 3.11は昼だったのでよかったが、夜だったらもっと被害が大きかったと思う。衛星電話など非常時に役場との連絡を取れるようにしなければならない

答 今回の震災を経験して、避難所との連絡がとれなくなり、そのことでクレームも来ている。重要だということもわかった。防災無線の強化や衛星携帯電話など通信手段の導入を考えていきたい。

意 一番の情報はテレビ。避難所でテレビを見れるように発電機や燃料の準備が必要。

- ・災害対応は、地域が立ち上がるしかない。
- ・ハードの整備も大切だが、時間がかかる。
- ・川口保育園は、どこに、どのような経路で避難させるかが大事。要援護者を誰が避難誘導するかが大切。

意 要援護者情報は、個人情報だからといって教えてもらえない。

意 津波で全壊した。職員は何回か見に来たが、ただ来ただけ。写真を撮っていかなかった。何しに来たのかわからない。対応をうまくやってもらわないと。

意 県議会の一般質問で、黒松の塩害の質問に対して、農林部長が、黒松が自立で生育できるかどうか見てからと答弁していた。町としても県に対して強く要望して欲しい。みんな死んでしまう。

答 県に対して強く要望していく。

質 一の川の底にガレキがたまっている。県の管轄だと思うが、どのように対応したか？

答 前に現場確認して、県に要望している。

質 災害時の町内会への連絡体制について。町内会をどういう位置づけにするのか？

答 今回の震災では、町内会には連絡していない。これまでも町内会の役割を決めてこなかった。  
・今後、役割や仕組みを作っていく。

質 9月の広報に洋光台の分譲地の助成金の記事が載っていた。知らせるのが遅すぎる。

- ・洋光台の購入だけ助成が出るのであれば、一般の土地を購入した人との間で不公平が出るのではないか。

答 6月の定例会で決定したもの。2度改正し、床下浸水の方も対象とした。

- ・一般の土地を購入した方からの不満の声は入ってきていない。

質 一川目の被災地は人がいなくなった。道路の管理がおろそかになるのではないかと放棄されている土地の草。刈るのは町内会でやってもいいから捨てるのを町で何とかしてもらえないか。町で捨て場所を指定するとか？

答 地域整備課に連絡してもらえれば、何とかしたい。

質 復興特区は？

答 活用できるものは活用したい。現在、情報収集している。

意 町は人口が増加しているが、二川目地区は減少している。昔は二川目銀座だった。商店が28軒もあった。高齢者等では買い物難民も出ている。そこで、二川目郵便局のとなりに道の駅を作ってはどうか。

- ・休耕田が荒れ放題になっている。町から土地改良区に意見を言ってもらいたい。
- ・ジャスコ道路は壊れている。県に要望して一般道に格上げして、六ヶ所から八戸まで改良、拡幅してほしい。今回津波で通れなくなった国道338号のバイパスになるのではないかと。
- ・電気料金の割引が個人に還元されているが、個人に返さずに町で基金を造成するなどして事業をやったほうがいいのではないかと。
- ・二川目の浜も貴重な資源。使い方によっては非常にいいのではないかと。松林の中に道路を作って散歩できるようにしたらいい。町民の交流の場になるのではないかと。

答 要望として受け止めておきます。

おいらせ町震災復興計画策定委員

区 分	所 属	職 名	氏 名	備 考
学識経験を有する者	八戸工業大学	大学院工学研究科 土木工学専攻 教授	武 山 泰	
町議会議員	おいらせ町議会	総務文教常任委員会委員長	吉 村 敏 文	
		産業民生常任委員会委員長	柏 崎 利 信	
公共的団体の役員	おいらせ町消防団	団 長	立 花 國 雄	
	十和田おいらせ農業協同組合	ももいし支店長	木 村 晃	
	百石町漁業協同組合	代表理事組合長	木 村 慶 造	
	おいらせ町商工会	会 長	齋 藤 茂 人	
関係行政機関の職員	八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部	警備課長	横 沢 悦 雄	
	上北地域県民局地域連携部	地域支援室長	白 山 昭 彦	
	上北地域県民局地域整備部	河川砂防施設課長	佐々木 清 志	
	三八地域県民局地域農林水産部 三八地方漁港漁場整備事務所	建設課長	今 泉 利 昭	
	上北地方県民局地域農林水産部	総括主幹	高 橋 俊 彦	平成23年9月13日まで
町内会の代表者	一川目町内会	会 長	工 藤 正 志	
	二川目町内会	会 長	山 田 勝 夫	
	川口町内会	会 長	田 畑 清 吉	
その他町長が必要と認める者	百石工業団地企業連絡協議会	日本フードパッカー(株)青森工場総務部長	福 山 治 彦	
	深沢地区自主防災会	会 長	工 藤 一 雄	